10月2日号 第2645号 2003年（平成15年）
（昭和24年5月10日 第三種郵便物認可）
発行所 財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地 5－3－1
電話 03－3542－3678～9
FAX 03－3541－9085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
（毎週木曜日発行）
購読料 月極610円 送料共

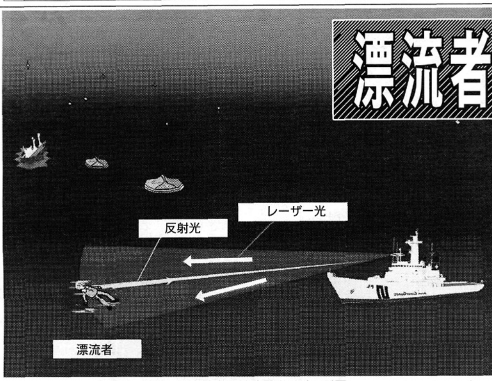
海上保安新聞

しなやかな発想で21世紀
日昇印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1－14－14
TEL 03－3553－3161～4
FAX 03－3551－4898

漂流者発見へレーザー光

荒天、夜間でも威力

新装置 数年内実用化目指す



レーザー捜索監視装置のイメージ図

海上保安庁は、荒天下の夜間でも漂流者を迅速に発見できるレーザー捜索監視装置（仮称）の開発に成功した。これまでの性能試験で有効な結果が得られており、数年内の実用化を目指す。レーザー光は単一波長で、減衰や拡散が少ないメリットがあり、現装置の赤外線カメラやサーチライトの数倍の性能を持つ。文字も1・5キロ先の漁船名をはっきりと解読できる。長崎保安部の巡視船「でじま」で試験を重ねているが、海難救助での活躍が期待されるほか、密漁、密輸、密航、不審船対応など、警備業務への応用も検討されている。

レーザー捜索監視装置は、装備技術部装備研究プロジェクトチームが、3年前から民間企業と共同研究してきた。巡視船から海面にレーザーを照射、反射光率の違いで漂流者を発見する。

人や船舶などを海面と明確に識別し、巡視船がどれほど揺れても目標をとらえる目標追尾機能も備えている。漂流者が波間に隠れても見逃さないため、発見したら確実に救助できる。

従来のサーチライトは、夜間に海がしけて白波が立つと、漂流者の識別が難しかった。また熱に反応する赤外線カメラは、赤外線を吸収、散乱させる雨や霧の悪天候時では見えにくい場合もあり、漂流者の体温が海水温と同じになった時は識別できないデメリットがあった。

レーザー光は体温差によらないため、ウエットスーツの漂流者も画像識別化できる。

レーザー捜索監視装置は、解析性能も大幅に向上した。赤外線カメラでは識別できない文字も、1キロ先の25センチ角の文字が超望遠レンズではっきりと解読できる。5キロ離れた船影もとらえられ、1・5キロで船名が読める。また建物内の人物をガラス越しに確認できるほどの性能がある。

現在はサーチライトで照らし、望遠鏡で船名や船籍を確認している。レーザー捜索監視装置が導入されれば、相手に気付かれずに行動を確認できるため、密輸や密航、密漁の警備業務にも威力を発揮することが期待される。

北朝鮮工作船の見学者アンケート

「海の安全」について 8割が『意識変わった』

日本を取り囲む海の安全について意識が変わったという人が8割――。東京・お台場の「船の科学館」（品川区東八潮）で、一般公開されている北朝鮮工作船の見学者が抱いた工作船へのイメージが、アンケート結果で分かった。見学者は北海道から沖縄まで全国各地から訪れており、拉致被害が多かったと思われる東北、近畿、北陸の比率も高い。解答した人の年齢は30～60代が多く、全体では男性が7割を占めている。

調査は、一般公開を援助している日本財団が夏休みの8月22～24日の3日間、第1会場出口でアンケートを行い、3124人から回答を得た。

公開を何で知ったかについては、新聞・テレビが85%。日本の海の安全について状況を知っているかの質問に、57%が「知っていた」。それでも、工作船を見た後は、80%が「意識が変わった」と答えている。

工作船のイメージは、恐怖心（怖い、恐ろしい）、驚き（すごい）、予想していたより大きいなど。海上保安庁の活動については、74%が知っていた。海の状況については20%が国防、警備、取締りの必要性を訴えている。

工作船展示については▽保存してほしい▽いい企画だと思う▽多くの人に見てもらいたい▽勉強になった――などの意見が寄せられている。

見学者の年齢は30代19%、40代18%、50代21%、60代17%。地域別では会場が近い関東が70%を占め、これに中部、北陸、近畿、東北が続いている。

稚内保安部とサハリン国境警備隊

日ロが洋上会談

海難、密輸などで情報交換

稚内保安部とロシア連邦保安庁太平洋地域国境警備局のサハリン国境警備隊との洋上会談が9月25日、宗谷岬灯台北方21キロの海上で行われた。両機関の洋上会談は平成5年10月以来で、10年ぶり2回目。

現場機関同士の洋上会談開催は昨年8月、友澤博保安部長（当時）を団長とする友好親善団がサハリン州のコルサコフを訪れた際に合意した。しかし、ロシア側の事情で延び延びになっていた。

会談は、ロシア側が警備艇「コルサコフ」から巡視船「しらかみ」に移乗して行われた。稚内保安部から齋藤弘警救課長ら6人、ロシア側からはユジノサハリンスク領域部次長のマリチエンコ・アレクサンドル大佐ら5人が出席した。

海難については、通常・緊急時の連絡先など双方の窓口を確認。迅速な情報交換を進めることで一致した。

薬物・銃器の密輸・不法所持、密航についても情報を交換。ロシア側は「薬物・銃器は北方四島地域で多い。密航では、サハリンで中国人3人を逮捕した例もある」などと報告した。

次回開催問題も話し合われたが、期日設定まではできなかった。

齋藤課長は洋上会談後、「現場同士の連絡を絶やさないことが大切」と語った。

「しらかみ」船内での洋上会談

国土交通大臣に石原氏

9月22日発足の第2次小泉改造内閣で、国土交通大臣に石原伸晃氏が就任した。

石原国土交通大臣

石原氏は衆議院議員当選4回（自民・東京8区）。日本テレビ記者を経て政界入り、通産政務次官などを歴任。今回は行政改革担当大臣から横滑り。

父親は東京都の石原慎太郎知事。石原知事も竹下登内閣で運輸大臣（当時）を経験している。

週間海難情報

9月22日（月）～9月28日（日）

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は5隻、16人だった。

種類別	隻数
衝突	15
乗り揚げ	3
転覆	5
火災	1
爆発	0
浸水	2
機関故障	2
推進故障	2
舵故障	2
行方不明	0
その他	5
計	37

潮流

▼①初対面の女性が「娘さんは大きいのですか」。「上は171センチ、下が168センチです」。「私は年齢をお聞きしたつもりだったのですが」。②お母さんが、つまみ食いをして、2歳の坊やに見つかった。「何食べてるの？」。「これは秘密よ」。「僕も、そのヒミツ食べたい」▼③小学1年生が日記を書いている。「きのうはAちゃんと遊びました」。それを見ていたお母さんは「Aちゃんと遊んだのは、きょうよ」。「でも、先生が読むのは、あしただから」。よくある話だが、①は両方が悪い。②はお母さんが、あわてている。どちらも、相手への配慮がない。③は相手（読み手）を意識しているのが、ほほえましい▼会話の際には無意識に、自分と相手との関係（距離）を確認している。ところが、文章を書く時には、そうでない人が多い。日記、手紙、組織内の報告、広報文、新聞記事――。読み手が異なるから、書き方も変わる。読み手を考えることは、自分を客観視することにもなる。それが文章を書く出発点ではないか。こんなことを、広報実務指導者研修で話した。